

佐賀大学経済学部三好ゼミ・福岡大学経済学部中村ゼミ

第1回インターゼミナール

日時 2008年11月19日

場所 福岡大学文系センター15F 第7会議室

プログラム

第1部 福岡大学 座長 中村 由依 (福岡大学)

午後3時30分ー午後3時50分

報告者 秋山 禎貴

論題 「エイズ治療薬無料化へーブラジルと南アフリカの違いー」

午後3時50分ー午後4時10分

報告者 串間 弘太郎

論題 「ODAは誰の為なのか」

午後4時20分ー午後4時40分

報告者 木元 綾乃

論題 「緑の革命の可能性」

第2部 佐賀大学 座長 三好 祐輔 (佐賀大学)

午後4時40分ー午後5時40分

報告者 西田 力・中井 マミ・中山 愛美・早見 文博

牛島 令子・益本 真理・大脇 知子・張 正堯

論題 「証券会社の合併効果」

概要

今回のインターゼミナールは、福岡大学経済学部中村ゼミナールと佐賀大学経済学部三好ゼミナールの共同開催であり、両大学の学部3年生がそれぞれの卒業論文のための研究についての中間報告を行った。

最初に秋山禎貴氏（福岡大学経済学部3年）は、エイズに対するジェネリック医薬品の流通の是非、また、医薬品の無料化に関する議論と課題をブラジルの例を挙げながら明らかにした。これらの分析は、現在アフリカが直面している課題の指摘と方針の示唆につながった。次に、串間弘太郎氏（福岡大学経済学部3年）によって、各国のODAの規模と効率性が分析され、現状の支援の課題が明らかにされた。そして、途上国側の自発的開発援助への参画と、援助金の効果的利用のためのインセンティブが必要なことが示された。木元綾乃氏（福岡大学経済学部3年）によって行われた緑の革命の研究では、インドの急速な自足自給率達成に着目しながら、メリットだけでなくそのデメリットについても分析された。これは、今後のアフリカの経済発展のためのベンチマークとなる結果である。最後に、佐賀大学3年の8名の学生による合同研究報告が行われた。彼らは、証券会社の合併による市場の期待と、実際の効率化には差異があることを明らかにした。これらの研究は、銀行ではなく証券会社のデータを用いて分析した点がオリジナルであり、そのミクロ的分析手法も斬新であった。

どの報告も、結論を裏付けるデータが豊富であり十分納得のいくものであった。また、福岡大学経済学部中村ゼミ2年生も質疑応答に加わり活発な議論がなされ、両大学双方の参加者にとって有意義なインターゼミナールとなった。



